

◆事務所休館のお知らせ◆

12月25日(金)午後から来年1月4日(月)まで、年末・年始のため、事務所を閉館とさせていただきます。予め、ご了承ください。

江東支部



墨田、江東、江戸川合同編集

東京土建一般労働組合

江東ブロック会議

江東区北砂1-11-4

TEL [3640] 2411

発行者 大勝友二

定価 30円

新聞代は組合費に含まれています

まだまだ仲間の助け合い運動は続きます！

—『訪問聞き取りアンケート』の結果から仲間の窮状を見る—

9～10月の秋の拡大月間中、訪問や電話で日々聞き取りを行ってきた仲間の『聞き取りアンケート』。長引く新型コロナウイルスの影響で、仲間の置かれている現状がリアルに反映された結果となりました。

さまざまな助成制度や給付制度がありますが、誰一人、取り残すことなく申請をすすめていかななくてはなりません。後日「知らなかった！」と言われないように、もう一回りの声かけを分会・群の仲間へ行っていくことで助け合い運動を継続します。

下記では、4つのアンケート結果について分析してあります。また、各種の相談は支部事務所にて随時受け付けをしています。一度は自分で申請したが通らなかったという仲間が支部へ相談した後に再度申請→受給できたというケースもありました。諦めず、また面倒臭がらず、一緒にこの困難な状況を乗り越えていきましょう。

3.持続化給付金について

項目	計	%
申請した	97	41.5
これから申請する予定	50	21.4
知らなかった	52	22.2
その他、なんでも	35	15.0
計	234	100.0

その他

- ・消費税の兼ね合いなどで税理士と相談。
- ・そこまでは減っていない。
- ・申請予定なし。
- ・制度対象外。
- ・多くの事業主が申請したがこれからが不安。

「申請した」が40%以上となっており、一定程度は進んでいると考えられますが、それでも「これから申請予定」「知らなかった」が各々20%以上もいるなど、まだまだ声かけを継続する必要性があります。申請の〆切は1月15日です。家賃支援給付金などとも併せ、国の助成制度をもれなく活用していきましょう。

1.コロナの影響は？

項目	件	%
仕事が減った	198	52.4
生活が大変	42	11.1
今のところ影響はない	128	33.9
その他、なんでも	10	2.6
計	378	100.0

その他

- ・来年以降の企業の設備投資に影響がでるのか心配。
- ・4月、8月は仕事が減ったが、その分後半になって増えた。
- ・年内まで仕事がありません。
- ・多少の仕事の減少はあったが、直接的な影響はなかった。
- ・仕事はあったりなかったりで様々、全体的に減少で生活苦。
- ・仕事が減少し、今後の見通しが見えない不安感あり。

半数以上が「仕事が減った」という一方、3分の1は「影響なし」という結果になりました。業種・職種や丁場により、コロナの影響にも「差」があることが分かります。しかし、今は大丈夫でも「これからが心配」とする人も多く、仕事や暮らしへの不安感は拭えないという状況は続きます。

4.江東支部の発信について(複数回答可)

項目	計	%
『土建しんぶん』を読んでいる	235	53.4
『Vibes』を読んでいる	47	10.7
『支部のホームページ』をみている	28	6.4
『群会議の話題』を見ている	106	24.1
その他、なんでも	24	5.5
計	440	100.0

その他

- ・各分会の拡大方針や行動内容が記載されているので参考になる。
- ・とても役に立っている。自分の記事が気になり嬉しい。

2人に1人が『土建しんぶん』を、また4人に1人が『群会議の話題』を読んでおり、紙媒体による情報発信は一定程度、浸透しています。しかし、支部のホームページの更新が滞っていることもあり、SNSを活用した情報発信という点では遅れています。若手世代にも見てもらえるよう、今後、充実させていかなければなりません。

2.土建国保の「減免制度」について

項目	計	%
申請した	22	8.1
これから申請する予定	45	16.7
知らなかった	162	60.0
その他、なんでも	41	15.2
計	270	100.0

その他

- ・申請予定なし。
- ・行動に制限がかかる。
- ・条件があてはまらなかった。
- ・そこまで収入減でない。
- ・申請したが、ダメだった(法人)。

今年2月から9月までの期間で収入が30%以上減少した月が4ヶ月(もしくは2月から11月までの期間で2ヶ月)あれば申請対象です。最大で8ヶ月分の保険料が戻ります。申請は12月24日受付分で終了となってしまいます。「知らなかった」人が60%もいます。声かけを急ぎましょう！

秋の拡大目標も達成！
これからが楽しみです！！



11月8日(日)、江東支部・青年部が焼肉交流会を開催しました。新しい顔ぶれの20歳代の若手組員の面々&ちよっと前まで青年部だったOB、書記局、総勢10人でつましく(盛大に?)開かれました。

青年部では、このイベ

きましう!

絡で定着を図ります。少しずつですが、着実に前進している青年部をみんなで応援しましょう。

『29歳までの組員』の皆さん、ぜひ、青年部へ!

楽しい活動、まじめな活動、一緒に成長していきましう!

**青年部も
がんばってます！**
— 久しぶりに交流会を開催 —

ントへの誘い込みをしよ
うと、秋の拡大月間中
に2度にわたる独自の訪問
行動！ そのかいあって
か、初参加の青年組合員
も見事にゲット！ 頼も
しくて優しいOBの先輩
たちとも、すっかり打ち
解けた様子です。

新型コロナウイルスの影響で当分の間は大々的なイベントはできませんが、今や当たり前のLINE交換も済ませており、今後マメな相互連絡で定着を図ります。少しずつですが、着実に前進している青年部をみんなで応援しましょう。

『29歳までの組員』
の皆さん、ぜひ、青年部
へ！
楽しい活動、まじめな
活動、一緒に成長してい
きましょう！

会長あいさつ

女性の会会長 **小野瀬有香**(深7分会)



12月6日、夢の島にある「都立第五福竜丸展示館」に献納してきました。再び原水爆による被害が起らないようにという願

いを込めて建設されたこの展示館。江東支部の諸先輩達は、展示館建設のためには協力を惜しまなかったそうです。私達もその意志を引き継いでいきたいです！

また折り鶴を収める箱は、深中分会の越原信夫さんに作って頂きました。本当にありがとうございます！

一日も早く「核兵器のない平和な世界
になってほしい」と願っています！

東京に緊急事態宣言が発令された春先、女性の会でひとつの取り組みが静かにスタートしました。会員同士の大きな集まりができない状況の中、「何かきいてみたい

「？」と思索した結果、役員10人ほどが、自宅で「折り鶴」の製作を始めました。

コッソツと何か月間も製作を続け、集まったのは千羽を超える折り鶴たわむれ。女性の会では、12月6日（旦）、この折り鶴で

核兵器の廃絶、そして戦争をしない・させない平和だけでなく、新型コロナウイルスに奪われてしまっている「日常的な平和を早く取り戻した」

平和を早く取り戻したい」という願いも、今はこの一羽一羽の鶴に込められているような気がします。

第五福竜丸の見学に訪れる機会があれば、江東支部・女性の会が丹精込めて作製したこの立派な「折り鶴」も忘れずに、ぜひ一緒に見てきてください！

折り鶴で作った『ひまわり』を
女性の会へ 第五福竜丸へ献納



『ひまわり』の大輪が咲きました！
(カラーでお見せできないのが残念！)

—平和への願いを込めて—

東京に緊急事態宣言が？」と思案した結果、役ち。そして、集まった鶴

できた『ひまわり』を平和への願いを込め、夢の島の第五福竜丸に献納してきました。

現場宣伝行動に参加

—豊洲の大手ゼネコン現場前にて—



現場から帰宅する職人さんをキャッチ！
聞き取りを行う江東支部から参加の面々

11月30日の夕方、東京土建本部の運動に連携する形で、江東支部から役員3人十書記局2人が参加してきました（全体7支部から37人の参加）。

現場での作業を終えて帰宅していく建設職人の皆さんひとりひとりに声をかけ、簡単なアンケートに答えてもらいながら、現場の様子や新型コロナウイルスの影響、賃金の上下なども併せて聞き取ってきました。

およそ1時間で全体34枚のアンケートが集まりましたが、江東支部は参加した女性役員2人の「積極的な」声かけが功を奏し、参加したどの支部よりも多くの職人さん達から話を聞き出すことができました。

新しい仲間を迎えて！

— 亀戸分会で新加入者説明会を開催 —



マスクの下は笑顔です！
熱心に説明する五十嵐分会長（左）
コロナさえなければ、「この後、一杯！ みんなで一緒に！」となると
ころでしたが……

後継者対策部では、組合に新しく加入した仲間へ説明会・歓迎会の開催を各分会へ呼びかけています。新加入者は加入手続きの際に通りの説明を受け、お互いの距離もより近くなります。

今年度はコロナ禍の影響もあり、どの分会でも説明会の開催ができる状況にはありませんでした。しかしこの度、『亀戸分会』が先陣を切って、新しい仲間を迎えられる説明会を行いました。分会役員から優しく、丁寧の説明を受け、新加入の組合員さんも一安心。組合のさまざまな給付制度や毎月の納入の注意点だけでなく、住宅デーや分会バスレクなどの、コロナが収まった後の各行事へのお誘いも熱心に行っていました。

考えるな！感じるんだ！

天沼昭博（小名木分会）

若くして、この世を去ったブルース・リー。彼が土建に居たら…間違いなく、そう答えたはずである。

言葉や考え方・生き方などの多くを映画の中から学んできた世代である僕が、今までの活動・行動を振り返るならば、同じように冒頭の言葉となるだろう。

この言葉は映画スター・ウォーズの中で、緑の小さな友人【ヨーダ】も口にしてるセリフでありブルース・リーから脈々と受け継がれている、とても有名な台詞だ。

また【ヨーダ】は修行中の主人公が《やってみる…》と言った時に《違う！やるか、やらぬかだ。試しなどいらん！》と言い放ち、出来るはずがないという気持ちや先入観があつては、出来るものも出来なくなってしまうと、物事への教えも説いている。

そして《今まで学んだことは、すべて忘れてしまえ》とも言葉にしている。過去の体験や先入観に惑わされ、固定概念で物事を捉えては新しいことを学ぶことが出来ないからだ。

今までの自分自身の活動には少なからず、これらの台詞が影響を与えている。

何らかの形で他者に影響を与える活動をすることが理想であり、そう思える活動は土建活動に限らず、人生においても、自分が伸びていく事でもあるのだと強く信じている。

人と人との関係は悩みの元にもなるが、《新しい考え》や《乗り越える楽しさ》も対人関係の中でしか得ることが出来ないことも事実。だから土建活動は、やり甲斐のある場を作り上げる事を大切に行っていくことが必要だと思う。

同映画から《良き仲間、自分で知りたくないほどの多くの過ちを見つけてくれる。》という台詞を、教宣部での厳しい活動の少しかりの言い訳として、目標を共に目指す仲間伝えたい。

もうすぐ年が明ける。新たな希望だ！頭の中で《スター・ウォーズ》のファンファーレが鳴り響く。

よし！また新しい自分を見つけに行こう。

仲間と一緒に前向きに

森島洋子（深7分会）

春先を振り返ると、本当にあった事なのかと、疑いたくなります。

コロナ感染拡大後、根拠のない「デマ」に踊らされ、マスクやトイレペーパーなどの買いだめに走った。今は猛省しています。患者数の増加や亡くなる方の悲報に触れて過ごす日々、人生は何が起こるか分からないと実感しました。お店が設けているルールに従って、他者との間に距離を置いて、違和感も少なく静かに買い物をしています。

仲間とラインで励みながら、[巣ごもり]の間、鶴を折り、旧交を温めるいい機会になりました。一羽、一羽の鶴が、大輪の「ひまわり」に完成。品薄の為、マスクを作り、次はマスクケース作り。前向きに動きはじめた皆さんと、体を動かし、笑顔になれた時間でした。

12月には[しめ縄飾り]の予定。コロナを理由にしないで、時間を上手く使い、できる事から始めたいものです。

そしてこれ以上、「怖い横文字」が飛び込んで来ないよう祈るばかりです。

みんなで作り上げていく達成感

吉田美穂子（亀戸分会）

今までに経験したことのない年でしたが、皆さんと同じく、只々コロナの一言ですよね。組合恒例の一年の始まりの行事「新春のつどい」の時は、いつになくワクワク感でいっぱいだったのを覚えています。

いろいろな規制があったけど、今回初めて他分会の方からお誘いのあった教育宣伝部。今までの自分だったら絶対に引き受けない部会でした。

学生だった頃、よく先生に「お前は日本人か？」と言われていたからです。それくらい国語の読解力がなく、作文を書けば「何を伝えたいの？」と言われる始末でした。そんな私が、どうして？なぜ？と思うでしょうが、一言で言えば誘って下さった方々が他分会の中で、尊敬して一目置いていた方々だったからです。

もちろん、凄く悩みました。私では、何の力にもなれない。だって文章が書けない自分、致命的ですよね。でも、今回の顔ぶれが素敵すぎて、絶対この中に入りたいと思ったからです。実際やってみて本当に大変でした。一緒にインタビューに回った事。初めて書いた記事。人と関わることの難しさ。

今の職場は人との関わりがないところなので、余計にそう感じたのかも知れません。

でも大変だった分、出来上がった新聞に載っている自分の記事と写真、照れくささと嬉しさは参加してみて初めて分かる事でした。まるで、学生の時の部活のような雰囲気に戻って、忘れていたみんなで作り上げていく過程の楽しさ、そして達成感。

この先どこまで力になれるか分かりませんが、皆さんの力を借りて関わっていきたいと思います。

自分の体を一番に

塚越悟（東砂分会）

コロナ禍の中で頸椎椎間板ヘルニアで入院・手術になり、思うように活動できない年になりました。

コロナ患者を受け入れている病院でもあり、まずPCR検査をして陰性が確認されるまで個室で軟禁状態になります。家族、友人の面会も禁止。売店に行けるのは午後の外来が終了してからで、洗濯物は自分で病院のランドリーに行くか、有料で依頼するしかありません。

看護師もいつも以上に忙しく、人手不足の感じでした。感染症病棟が増えたことと、売店での買物を頼まれたり、雑用が増えたためだと思います。私の場合は手術や麻酔の説明も家族の同席なし、手術当日さえも家族は自宅で待機して、病院には来ないでくれとのことでした。結局、退院までの19日間、誰も面会に来る事はできませんでした。

この様に、今、入院するとすごく不便な思いをします。皆さんも体には十分気をつけて、コロナ禍を乗り切りましょう！

ただし、体調が悪かったら、迷わず病院に行ってください。病院側も万全のコロナ対策をしているので、過剰にコロナを恐れないで下さいね。

自分の体が一番大事ですから。

新しい役割

鈴木信江（深中分会）

2020年度は新型コロナウイルスで始まり、第1波、第2波、第3波とコロナの影響で、毎年恒例の行事がすべて中止となりました。新分会長になったばかりの私はホッとした反面、今までの古い考えや習慣を変え、後継者が募る分会にしたいと、長年不在だった分会四役を立ち上げ、分会改革をしようと思った矢先のコロナ禍。活動が制限される中でも、拡大だけは待ったが効きません。

高齢者で構成された我が分会四役と群長さん達の「コロナから命を守るためのたたかい」から始まり、日中は書記局の名越さんと分会の事業所を中心に回り、群長さんには脱退を食い止めることを重視してもらいました。秋の拡大は一応達成しましたが、月間中、支部方針の壁に幾度とぶつかり、噛み付いたこともありました。

今、振り返ってみれば、大掛かりで面倒に思っていた住宅デー、分会経験交流集会、活動者会議が分会の絆と後継者の活性化につながった唯一の場であると改めて認識することができました。

そんなコロナ禍だからこそ、土建しんぶんやVibes（バイブス）の発刊を通して組合員の有益な情報を共有し、疑問に思っている組合員さん一人ひとりの生の声を発信していきたいと自ら教育宣伝部の通信員に志願しました。やる気マンマンで志願したはずの取材記事は、思っていた以上に難しく、大変で、回を重ねる毎に班長としての責務を果たせずじまいの自分がいました。

もう一方、女性の会の組織部長としての役割は、大ベテランの方々に囲まれての拡大、常日頃のネットワークの良さと信頼度で春・秋ともに超過達成!!

コロナ禍でも遭れるアクションを起こし、すぐに行動に移す女性の会は、いつも一枚岩で楽しく活動ができ、私にとっては元気を取り戻す癒しの場所となっていることに感謝です。主婦の力は「支部を支えている」と言っても過言ではありません！

足を止めずに

小野瀬有香（深7分会）

世界中の殆どの人がそうであったように、私自身、新年度に向け動き出す頃は、ここまでコロナが大変な事態になるとは考えてもみなかった。今年の総会で初めて会長に立候補する予定だった私は、総会に向けた準備を行いながら、「今年の平和学習会ではこんなことをしてみたら参加者が増えるかな？ 後継者を集めるにはどうしたら良いかな？」など、想像を巡らせ、会議でも意見を募っていた。

が、その後コロナ感染対策のため、総会の一時延期、終息の目途がつかず中止を決断、直後に出された緊急事態宣言と気持ちの整理もつかぬまま、あれよあれよという間もない勢いの中で生活が一変してしまった。

当時はコロナ感染に対して脅威を抱くと同時に、「家族の仕事が止まってしまうかも知れない！

生活はどうなっちゃうんだろう（汗）」という不安の方が気持ちの上ではかなりの割合を占めていたというのが正直なところで、組合活動についてはその次だった。そうは言っても拡大月間はやってくるし、何もしないでいると女性の会の会員さんは減少してしまうので、結局、「コロナだからといって何もしない（できない）」という選択」はなかった。

緊急事態宣言中には、「砂銀のあそこに行けばマスクが買えますよ！」「江東区のコロナ感染者地域マップというのがあります！」など、会員さんからの情報や、持続化給付金に関するお知らせ、組合が行った「コロナによる仕事についてのアンケート」等をLINEで発信したり、安否確認の意味を込め電話掛けを行った。そして、「会員さんたちの元気な顔を見たい!」という役員さんの想いと、「何かやって欲しい!」という会員さんからの声を受け、「マスクケース作り」を開催した。

第3波が押し寄せている今、行動を起こすにはいつも以上に慎重にならざるを得ないが、今後も安全を考慮しつつ、足を止めない事こそが私の役割であると考えている。

新しい視点で

佐原晶子（四砂分会）

今年は春先からコロナという新型肺炎に振り回された2020年でした。土建の活動も縮小されました。

私は執行委員2年目、分会長も2年目、コロナというイレギュラーな世の中に試行錯誤でした。分会活動も制限されましたが、私たちの分会は三密を避けて、時間を決めて分執や集約を行い、拡大も四役が組合員に電話をかけ、訪問をしてよいかを聞き、来てもいいと言えば2〜3人で訪問しました。なるべく夜の訪問を控えたりもしました。

昼間は私が仕事のため動けないので、周りに助けてもらいました。そのため拡大も達成することもできました。

執行委員では教育宣伝部に、これまた二年目。部長や担当書記が変わると、やることも180°変わり、あたふたしました（今でも、あたふたとおります）。新しい教育宣伝部独自の新聞「バイブス」を発行、いろんな視点から土建を見る、これまでの土建に囚われない記事に悪戦苦闘しながら書いています。そのおかげというか、別の角度で土建を見ることができるようになりました。

新聞作りの大変さも分かってきました。ただ記事を書けば良いのではないことも感じました。一文字一文字、一言一句、自分の思いを言葉に託す難しさも知りました。この1年、久々に勉強をしたなと感じ、またこれからの活動に、ここで勉強をしたことが活かせたらと思います。

プライベートでも、健康診断で見つかった病気での入院手術や身内の事故やケガ、それこそ土建で知り得たことが役に立ちました。

『ろうきん』を活用しよう！

渉外担当
山口 貴大

中央労働金庫 電戸支店
江東区亀戸1-10-15 〒136-0071
TEL (03)3681-4136
FAX (03)3636-5475
E-mail: takahiro.yamaguchi@chuo-rokin.or.jp
Home Page: <https://chuo.rokin.com>

ろうきんアプリ

私たち『ろうきん』に
お任せください！